

平成 29 年度第 6 回 広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時 平成 29 年 11 月 8 日（水）18 時 30 分～19 時 45 分

2 開催場所 広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室

3 出席者

(1) 委員

秋山委員長、川本委員、木矢委員、松村委員、吉中委員

(2) 臨時委員

吉川委員

(3) 地方独立行政法人広島市立病院機構

理事長、副理事長、広島市民病院長、安佐市民病院長、舟入市民病院長、リハビリテーション病院長、本部事務局次長、安佐市民病院整備室長、広島市民病院事務長、安佐市民病院事務長、舟入市民病院事務長、リハビリテーション病院事務長、経営管理課長、財務課長

(4) 事務局

健康福祉局長、保健部長、市立病院担当部長、保健医療課長、市立病院担当課長

4 議事

地方独立行政法人広島市立病院機構の第 2 期中期計画（素案）について

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者 3 人

報道機関 1 社

7 会議資料

資料 第 2 期中期目標（案）と第 2 期中期計画（素案）概要

参考 地方独立行政法人広島市立病院機構中期計画（第 2 期素案）

8 会議要旨

(1) 審議事項の説明について

ア 説明

- 市立病院機構（経営管理課長）が、資料により概要を説明。

イ 質疑・意見交換

[吉川委員]

- 資料**の 2 ページの「(2) 安佐市民病院」の「カ 新病院での新たな取組の検討」の項目について、具体的に検討しているところだと思うが、**参考**の該当箇所を見ても、抽象的な記載になっている。このまま変えないのか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 現在、基本設計の段階であるため、具体的に記載していない。こういった体制や関連業務を検討しようということである。

[吉川委員]

- ・ もう一つ、**資料**の3ページの「(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設」で、訪問リハビリなどは、どの程度実施しているのか。

[市立病院機構（リハビリテーション病院病院長）]

- ・ 特に当院を退院した患者が、退院してから3か月くらいの期間に在宅療養に移行する時期の支援として、訪問リハビリ・訪問看護をやりたいと考えているが、先月の時点で訪問リハビリは4人くらい、訪問看護はほぼ実績がなしである。

[吉川委員]

- ・ リハビリテーション病院は、回復期のリハを中心にやられているが、地域の医療機関との連携についての記載がほとんどない。急性期の病院との連携ばかりで、退院した後は地域の医療機関との連携が必要になってくると思うので、それについて少し書いていただきたい。

[市立病院機構（リハビリテーション病院病院長）]

- ・ 御指摘のとおりで、これからリハビリテーション病院に期待されていることは、地域包括ケアの体制の支援であり、退院後のフォローアップなどがとても大切になる。このため、これからより一層、医療的な訪問看護、訪問リハビリ、それから健康福祉局がやっている介護予防の専門職としての指導や支援などにも積極的に取り組もうとしている。

[木矢委員]

- ・ 地域包括ケアについて、4病院がいっしょになることのメリットというか、一番端的で分かりやすいのは広島市民病院と舟入市民病院のような形でできたら一番いいと思う。安佐市民病院の場合は、北館とどのような関係を構築するのか。また、地区の医師会や地域包括ケアを含めたようなものと連携していくのが重要と考える。

[市立病院機構（事務局長）]

- ・ 今度新しく新安佐市民病院と北館に整備する病院とで地域包括ケアシステムを構築する方向でやっていこうと考えている。

[木矢委員]

- ・ 高度急性期に当たる部分でいえば、広島市民病院と安佐市民病院があるが、二つはちょっと性質が違って来る。広島都市圏における高度急性期は広島市民病院であるが、安佐市民病院は、北西部の広域的な病院になるので、そこをどう構築するのか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ そこについては前文に掲げているが、高度急性期といっても、それぞれ役割が違うと思っている。

[川本委員]

- ・ **資料**の4ページの3(3)の「エ クリニカルパスの活用拡大」について、ここには書いていないが、説明があったように、高い目標値を掲げており、舟入市民病院は実績 38.9%に対して

50%の目標で、実績より10%以上高い値であるが、現状であまり活用していないのか、それとも新しく何か作るのか。

[市立病院機構（舟入病院病院長）]

- ・ 電子カルテが入ったことでデジタル化が進んでおり、もう少し増やす余地がある。今年度はうまくいけば50%近くいくかもしれない。月によってもあるが、どこも小児科は感染症中心なので、入ってくる患者の種類によって、なかなか適用がしにくい人もおり、バラつきもあるが、増えてきている。

[秋山委員長]

- ・ **参考**の8ページの患者満足度の平成28年度実績は、病院によってバラつきがあるが、何か事情があるのか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 病院ごとの特徴が出ているものと考えられる。

[秋山委員長]

- ・ 目標達成できるよう期待している。

(2) 今後の会議の進め方について

ア 説明

- ・ 事務局（市立病院担当課長）から、いただいた御意見を踏まえた資料の修正や次回の提示資料について説明。

イ 質疑・意見交換

[松村委員]

- ・ 資料を事前にいただいており、全て説明すると議論する時間がないので、進め方を考えて、もっと議論する時間を取っていただきたい。

(3) 事務連絡

[事務局（市立病院担当課長）]

- ・ 次回、第8回の評価委員会は11月29日、水曜日の18時00分からこの会場で開催させていただく。次回は、今回いただいた意見で修正した第2期中期計画案についての審議を予定している。